

第3章 学 校 管 理

第1節 教職員異動の概要

1 小中学校関係

昭和37年度末人事異動にあたっては、教育効果第一の立場から、教職員の適正配置につとめ、その組織の充実を期し、もって教育の刷新向上をはかるため、都市と農村および、へき地との交流をはかり、さらに新卒業者の採用につとめ、清新の気風注入に努める一方、高等学校生徒急増対策と事務局の機構改革にともなう人事に特に配慮した次第である。

異動件数は小中合せて3,573件にのぼり、近年にない大異動となったがその内容の主なものをあげると、

- (1) へき地とへき地外との交流については、特に重点をおき計画的に進め、その数は514名にのぼっている。さらに多年へき地教育に身をかけた教職員に対しては、その労に報いるよう格段の配慮をした。
- (2) 都市と農村の交流においては、977名におよび、また永年勤続者についても交流を行ない、各校の教職員組織の適正化をはかった。
- (3) 高校教員の定数増に伴ない、小中学校より200名を高等学校に配置替えをしたが、このことは、小中学校児童生徒の減少とも関連するところであり、他面有能な新採用教員の確保により、学校運営に支障をきたさないよう最大の努力をはらった。
- (4) 新採用については、児童生徒の自然減もあったが、学級編成基準の引き下げと、定数法定方式の改正により、小中学校教員定数増72名もあって、小中合わせて約586名を採用することができ、教育界に清新の気を注入し得たものと信ずる。
- (5) 本年度末退職された方々の数は小学校長42名、中学校長19名を含めて、本県教育界に貢献されたご功績に対し、深甚なる敬意と感謝とを捧げたい。

2 高等学校関係

高等学校においては福島西女子高等学校をはじめ4校の新設高校と、部の独立3校を含めて137学級の増募を行なったので、これに伴って教員の定数増423名があり、年度末人事はいきおい新採用が中心となった。しかし、新設校の職員組織の必要や都市と周辺校間、および全日制と定時制間の交流等を積極的に実施したので、交流の件数も相当数にのぼった。

盲学校、聾学校においては、若干の生徒数の減も予測されたので、教員定数は昨年同様であったが、寮母については勤務条件の改善等のこともあって7名の定数増を見たので、これが増員と若干の高等学校あるいは、小中

学校との間の交流に止まった。

養護学校においては、教員2名の定数増があり、さらに寮母、マッサージ師および機能訓練士の増員があったが、本校は昨年度新設の学校であったので他県転出者1名の補充と定数増による教職員の採用を行なった。

以上県立学校の異動件数は、新採用約263件、小中学校からの転補約200件をはじめ、総件数881件におよぶかつてない大巾なものとなった。

第2節 学校の設置および統廃合

県教育委員会は多年にわたって小規模校を少なくし、適正規模による充実した設備と内容をもつ小中学校の設置に努力してきた。昭和37年度の関係で新設、統合しました学校を次にあげる。

1 新設公立幼稚園

管内	新設幼稚園名
伊達	霊山町立掛田幼稚園
安積	日和田町立日和田幼稚園

2 統合による公立小中学校の設置廃止

管内	統合学校名	廃止学校名
伊達	伊達町立伊達中学校	伊達町立伊達中学校 伊達町立伏黒中学校
信夫	福島市立西信中学校	福島市立佐倉中学校 福島市立荒井中学校 福島市立土湯中学校
両沼	会津高田町立第一中学校	会津高田町立高田中学校 会津高田町立赤沢中学校
安達	安達町立安達中学校	安達町立油井中学校 安達町立渋川中学校 安達町立上川崎中学校

3 昇格による設置廃止

管内	昇格による新設学校	廃止学校名
安達	東和町立北戸沢小学校 熊ノ谷分校	東和町立北戸沢小学校 熊ノ谷分校(季節分校)
南会	下郷町立南小学校	下郷町旭田小学校音金分校
	下郷町立南小学校 大文字分校	下郷町立旭田小学校 大文字分校
	館岩村立上郷小学校 館岩村立上郷小学校 鱒沢分校	館岩村立館岩小学校 上郷分校 館岩村立館岩小学校 鱒沢分校